

季刊 こども文化財しんぶん

はっけん おおのの宝

2026
秋号

大野市の恐竜

●大野市初の恐竜化石

大野市で初となる恐竜化石の発見は、1996年まで遡ります。それは大野市下半原に分布する約1億2880万年前の前期白亜紀の地層から発見された、長さ約1cmの小さな歯化石でした。この歯は、断面がアルファベットのDの形になっていて、肉食恐竜の特徴であるステーキナイフのようなギザギザが2列に並んでいいます。この2つの特徴は、ティラノサウルス類の上顎の前に並ぶ歯に見られるものです。その後、この歯化石は、日本産ティラノサウルス類として1999年に世界的に発表され、当時、世界最古級のティラノサウルス類化石として注目されました。



1996年に大野市下半原で発見されたティラノサウルス類の歯化石

●ティラノサウルス類とは

1905年、アメリカで発見された全長約13mの恐竜「ティラノサウルス・レックス」は、白亜紀末期(約6600万年前)の最大・最強の肉食恐竜として有名です。ティラノサウルス類は、これまでに北アメリ

カやアジア、ヨーロッパで発見されており、これまでに30以上の種類が知られています。

大野市のティラノサウルス類は、どんな恐竜だったのでしょうか。大野市産ティラノサウルス類の歯は、2004年に中国の約1億3000万年前の地層から発見されたティラノサウルス類のデイルング(全長約2m)の歯と共通した特徴をもっています。このことから、前期白亜紀の大野市には、身体が大きく進化する前のデイルングのような小型の種類が生息していたと考えられています。

●大野市の恐竜研究への期待

福井県ではこれまでに数多くの恐竜化石が発掘されていますが、現在までにティラノサウルス類の化石が発見されているのは大野市下半原だけです。日本産ティラノサウルス類の化石は、大野市の他に、北海道や岩手県、福島県、石川県、兵庫



大野市のティラノサウルス類のイメージ [©山本 匠]

県、長崎県、熊本県に分布する白亜紀の地層から発見されています。その中で大野市と石川県白山市が並んで日本最古のものとして残っています。つまり、大野市は、日本のティラノサウルス類のルーツやその起源を明らかにする可能性を秘めた地域であり、新たな化石の発見が期待されています。(酒井)

越前朝倉氏と大野

●朝倉氏のはじまり

1467年に大きな戦い(応仁の乱)が起きると、誰が越前国(今の福井県北部)をおさめるのかを決めるため、朝倉氏と斯波氏がたたかいました。朝倉氏は各地で勝ち進み、大野での戦いに勝つことで、朝倉氏が越前国をおさめることが決まりました。



●たたかった人たちの祈り

朝倉氏と斯波氏のたたかいでは、たくさんの方々が亡くなりました。大野をおさめ

ることになった

あさくら しょうきゅう

朝倉光玖は、

亡くなった人た

ちのために寺

れんこうじ

(蓮光寺)を建

てました。ま

た、上庄地区にお経を埋めました。

人々は朝倉氏は乱暴な人たちではない

とわかり、安心しました。

●大野をおさめるしくみ

あさくら えちげん

朝倉氏は、越前の大切な場所に係の人

(奉行や代官)において、直接命令を出し

ておさめていま

した。

しかし、大野

と敦賀の2つの

地域だけには

ぐんじ

「郡司」という

リーダーをお

きました。郡司

は一乗谷から

の命令がなくても、自分の考えで動くこと

ができました。朝倉氏は大野と敦賀をと

ても大切な場所と考えていたようです。

●朝倉氏の終わり

おだのぶなが

1573年、織田信長とのたたかいに負

けた朝倉義景(5代目)は、もう一度たた

かうために大野へ逃げました。



大野は親戚の

景鏡が守ってい

ましたが、景鏡

は義景をうら

切つてしまいま

す。信長の軍に

囲まれた義景

は、自分で命を

絶ちました。

このように、大野での勝利から始まった

朝倉氏の越前支配は、同じく大野の地で

終わったのでした。(田中)



おいしい 美味しいものを 食べる

私たちは昔から、食事を楽しむために

いろいろな作り方を考え、ルールをきめ、

道具をつくつてきました。こうした「食べる

ための工夫」を「食文化」といいます。

●大野の伝統的な食べもの

たとえば大野市には、夏に焼きサバを

食べる文化があり、文化庁の「100年フ

ード」にもえられえました。江戸時代には

じまった行事で、山にかこまれた大野にと

つて海の魚を食べることは、お腹いっぱい

なること以上に特別なことでした。田植え

が終わったところに疲れをとり、元氣を出す

ためだったと考えられています。さむらい

たちもたくさんサバを買っていた記録が

あり、まち全体にひろがって今に伝わって



大野の夏の風物詩「半夏生さば」

います。

また川合地区では、正月の朝にみんな

で同じ雑煮を食べる「お箸始め」が行われ

ています。1年で最初の特別な食事をいつ

しよにとることで、地域の一員という気持

ちが生まれたようです。

土布子地区では昔、大きな洪水がおき

たとき、小さなほころに流木がひつかかっ

たおかげで助かったという言い伝えがあり

ます。そのため「伊勢講」という行事で、

味噌をにごった水、大根を流木に見立て

て食べることで、水害がおきないように願

いました。

●食事につかう道具の工夫

こうした食事をささえてきた道具に

も、たくさんさんの工夫があります。9月8

日から、大野市役所市民ホールで、むか

し使われていた道具を紹介します。たと

えば「酒とつくり」と「油とつくり」は、同じ

「とつくり」でも形が違います。ぜひ展示を

みて、昔の人たちの工夫や思いを感じてみ

てください。(田中)



いろいろな形の「とつくり」
所蔵：大野市民俗資料館